

いそは新聞

2014年(平成26年)4月発行
第26号
発行元: 福生市立中央図書館
福生市 熊川 850-1
TEL 042(553)3111
<http://www.lib.fussa.tokyo.jp>

本の紹介コーナー

紹介されている本は、市内の図書館に所蔵されています。ぜひ借りて読んでみてください！



昨夜のカレー、明日のパン
木皿泉
河出書房新社(二〇一三年)

テレビドラマの人気脚本家が贈る、連作短編集。
若くして夫を亡くしたデッコと、息子を亡くしたギフ(義父)。二人の穏やかな生活がどこかコミカルなタッチで描かれます。今の生活のままで十分に幸せ、何も望むことなく生きていける。けれど七年経って、少しずつこの居心地の良い場所から外へと足を延ばしてもいいのかもしれない。
デッコはキャンディーの空缶に入れていた亡き夫の遺骨の欠片を、お墓に返しに行くことにします。
「人は変わってゆくんだよ。それは、とても過酷なことだと思ふ。」
でもね、でも同時に、そのことだけが人を救ってくれるのよ。
暖かな静けさが胸に満ちる、TBS系「王様のブランチ」2013BookAward 大賞受賞作品。



最後の喫煙者
筒井康隆／著
新潮文庫(二〇一二年)

自選下駄バタ傑作集1
最後の喫煙者
筒井康隆／著
新潮文庫(二〇一二年)
国会議事堂のてっぺんで、自衛隊のヘリから放たれる催涙弾に悩まされながら煙草を吸う「おれ」。彼が、一体どのような経緯でこのような状況になったかを振り返る話です。
煙草と聞くとあまりいいイメージが無いものです。嫌いな人の方が多いでしょう。もしそういう人たちが過剰な弾圧を始めたなら……？まあ起こりつこない話ですが、だからこそ腹を抱えて読める面白い本です。
同書に収録されている『急流』なども、暴走した世界や人々を面白く描いており、爆笑必至の作品です。



ミュージック・プレス・ユー!!
津村記久子／著
KADOKAWA角川書店BC
(二〇〇八年)

真つ赤な髪、毛×黒縁めがね×歯列矯正器×一七〇センチメートルの身長。人目を引く外見に反して全くイケてないアザミ、高校三年生。数学の補講ばかりの地味な毎日を彩るのは、片時も耳から離さないヘッドフォンから聴こえるパンクロック！
「あたしには将来のことなんか考えられへん。というより自分のことを考えられへん。」
そんなことを考えるくらいやったら、バンドのことを考えてると思う。
アザミの個性的なまでの要領の悪さが、とても普遍的で切実な感情でもって読者の胸に迫る一冊。



だもい
相田みつを／著
文化出版局(一九八四年)

人間について追求しつつけた著者のロングセラー。詩を独自の書で伝えていきます。素朴な短い言葉のなかに深い考えと瑞々しい感性が感じられ、読んでみて素直な気持ちになれる本だと思います。



陽だまりの彼女
越谷オサム／著
新潮文庫(二〇一二年)

広告代理店で働いている浩介は仕事の商談の場で中学時代の同級生真緒に出会う。当時は髪はボサボサ、勉強もまったくできず浮いた存在で虐められていた真緒。そんな彼女をいつも助けていた浩介だったが、久しぶりに会った真緒は驚くくらい美しくなっていた。何度か会ううちにやがて二人は付き合うようになる。幸せな日々を過ごしていたが真緒には誰にも言えない秘密を持っていた……
この物語は嵐の松本潤さんと上野樹里さんで映画化されたお話です。そういうお話だったのか！と結末は思ってもよらない展開です。読んでみると「素敵じゃないか」をきくと聴きたくなると思います。



リバーズ・エンド
橋本紡／著
KADOKAWA角川書店BC
(二〇一一年・二〇一四年)
全五巻+外伝

「あなたの町に、海はありますか？」こんな一通のメールが拓己の十四歳の誕生日に届く。メッセージボットのようにならびにアドレスを打ち込みメールを送ったのは同じく十四歳の唯。唯の住んでいる町には海がない。二人がメールでやりとりを続けていると、唯が拓己の中学校に転校してくることになり……！
不思議な少女・唯と拓己のほんわかとした交流に和む一方、衝撃的な結末が待っています。リバーズ・エンド、意味は(川の終わり)。そして(海の始まり)。



オー！ファーマー
伊坂幸太郎／著
新潮文庫(二〇一三年)

僕には4人も父がいる！
(鷹)ギャンブルに興じる
(葵)希代の女たらし
(悟)問題を解くのが得意
(熱血教師)
母が出張する度、やっかいなことに巻き込まれる由紀夫。気になっている不登校の同級生へ、「俺が、おまえを助けるから！」「俺は全部知っているんだぞ」の言葉から今回も何かがおきる。



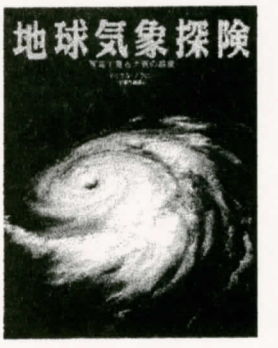
七人の鬼ごっこ
三津田信三／著
光文社(二〇一一年)

秘密の場所が結びつけた子供たち。その子供たちも成長し、それぞれの生活を過ごす中、ある日懐かしい人物から電話がかかってくる。その電話は鬼ごっこの始まりの合図……。彼らが封印したはずの記憶を蘇らせ死へと導いていく。彼らは最終的にどうなってしまうのか。
とても面白く、読んでいてヒヤヒヤしますが読み応えのある本です。ぜひ読んでみて下さい。



サインをつかめ!
長谷川雅史／著
KADOKAWA角川書店BC
(二〇〇六年)

困った時にメールが届き、その指示に従うと願いが叶うという「サイン」。叶屋高校に通う四人がその噂の「サイン」を受取り……。四人それぞれの視点で物語は進んでいきます。
《そこはいっちゃえよ》
あなたは何かと読みましたか？まったく同じ文なのに受け取る本人の状況によってまったく意味が違ってくる面白さをこの本を読んで体験してください！



地球気象探検
写真で見える大気の惑星
マイケル・アラビー／文
小葉竹由美／訳
福音館書店(二〇一二年)
※出版社品切れ

今、最も心配されているのが地球温暖化。二酸化炭素の量が多くなると太陽の熱が閉じ込められてしまう現象です。これが何年も続くと異常気象を引き起こし暑い日が続いてしまい、住めなくなる日が来るかもしれません。怖いですが、そうならないためには便利なお物を作りすぎないことが大切だとこの本を読んで思いました。



怪盗道化師(ピエロ)
はやみねかおる／著
講談社青い鳥文庫(二〇一二年)
※一九九〇年版も所蔵あり

数々の名作を生み出したはやみねかおる先生の幻のデビュー作は名探偵……ではなく、「世の中に役に立たないものだけを盗む怪盗」でした。平凡な日々を飽き飽きした西沢書店のおじさんは、子どもたちに笑顔を与えることだけを目的に「怪盗道化師」になろうと決心。盗むのは、普通に考えれば盗難不可能なものばかり。たくさん笑って、ちよっぴりほろりの感動作です。読んで、心がポカポカしますよ。